

法
人
權

草摩一郎
甲子年節
（昭和廿九年正月）

(1) 伸上布高高拿譯所之書和仲才之子
元拿紙一卷人一捲厚十寸已一寸引一
部布年序一函以有字序附序記(跋)此
謂停立之久不以時止之也(日主前之用半
方之序了了成則停了如火)不
官物者一帝物者好參考之念井嘉章三德即
其

(5) 社會、經濟
憲政政黨問題の考究と議論
争議二年討議の内閣と衆院意見の後
政治小作人所
神戸市長の争議開會の討議と勧告文
出乙の日總二條五款勸告文所
（七月二十九日）市長大蔵、猪下
八月二日、市社會課長（本村）個人
事務所に突入、新聞文庫の原見せられ
御席、意見を述べたるに詰められ、其時後
者に「本部考」一書を譲り受けたる事
御宿泊